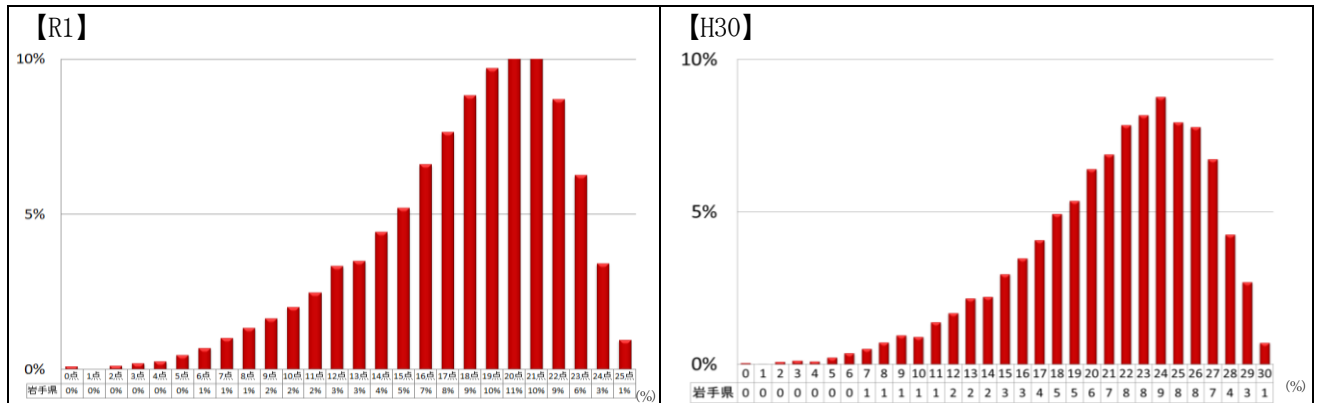


授業改善の手引 小学校第5学年社会

1 調査結果

(1) 分布状況



○ 問題数は昨年度より5問減り25問、正答数の最頻値は21問、平均正答数は18問です。昨年度の分布と比較して、山の位置がやや右側に移動するとともに、中位層の割合が高くなっています。

(正答数の最頻値:該当する児童数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率		観点	正答率	
	()はH30, ()はH29			()はH30, ()はH29	
身近な地域や市 (2問)	88%	(86)	社会的な思考・判断・表現 (10問)	68%	(71) (65)
地域の人々の販売 (2問)		(87)	観察・資料活用 of 技能 (8問)	71%	(72) (76)
地域の人々の生活の変化や願い (2問)		(94)	社会的な事象についての知識・理解 (7問)	75%	(68) (76)
地域社会における災害・事故の防止 (4問)	69%	(62)	活用 (8問)	64%	(58) (69)
飲料水の確保や廃棄物の処理 (4問)		(66)			
県の様子 (3問)	72%	(77) (77)			
我が国の国土の自然 (4問)	59%	(63)			
我が国の農業や水産業 (4問)		(61)			

(3) 結果概要

- 「社会的な事象についての知識・理解」の正答率は、昨年度の正答率を7ポイント上回っています。特に、方位の知識をもとに地図を読み取る問題で改善が見られました。
- 「社会的な思考・判断・表現」については、昨年度の正答率を3ポイント下回っています。特に、資料をもとに考え、説明する問題で課題が見られました。
- 活用に関する問題（通し番号3, 4, 10, 12, 17, 23, 24, 25）の正答率は64%です。特に、農業についての資料から読み取ったことをもとに考え、説明する問題で課題が見られました。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マウスを表す)

通番号	正答率	比較	調査のねらい	H30 比較問題 No
○1	94	▲2	地図記号の理解をみる問題	1
○2	90	15	学校の周りの様子について、方位の知識をもとに地図を読み取る問題	2
○5	96	1	道具と暮らしの変化について、古い順に並べる問題	6
○9	84	15	交通事故への対応について、警察署と関係機関の連携を資料から読み取る問題	8
○15	85	▲1	47都道府県の名称と位置の理解をみる問題	17
○16	73	▲4	等高線についての理解をもとに、地形のようすを読み取る問題	18
●17	57	▲4	岩手県の工業の様子について、複数資料を関連付けて考え、説明する問題	20
●21	48	▲13	国土の気候の概要の理解をもとに、気温と降水量のグラフを読み取る問題	25

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)							
大問	中問	小問	通番号						1	2	3	4	5	6	0	
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答	
1	(1)	1		主な地図記号を理解している。	3・4年(1)ア	知	経年	94	3	94	2	0	1	0	0	
	(2)	2		学校の周りの様子について、方位の知識をもとに、地図を読み取ることができる。	3・4年(1)ア	技	経年	90	90	3	3	3	0	0	0	
2	(1)	3		スーパーマーケットにみられる仕事の工夫について、資料をもとに考え、説明することができる。	3・4年(2)イ	思	活用	84	0	0	0	0	13	84	2	
	(2)	4		スーパーマーケットにみられる販売の仕方の工夫について、資料をもとに考えることができる。	3・4年(2)イ	思	活用	79	79	5	5	10	0	0	0	
3	(1)	5		暮らしにかかわる道具と、それらを使っていたころの暮らしの変化を理解している。	3・4年(5)ア	知	経年	96	0	1	96	2	1	0	0	
	(2)	6		暮らしにかかわる道具と、それらを使っていたころの暮らしの変化について考えることができる。	3・4年(5)ア	思		86	0	0	0	0	12	86	2	
4	(1)	7		交通事故に関する資料から事故の様子について読み取ることができる。	3・4年(4)ア	技		84	5	3	7	84	0	0	0	
	(2)	8		交通事故に関する資料から事故が発生しやすい時間帯について読み取ることができる。	3・4年(4)ア	技		43	0	0	0	0	56	43	1	
	(3)	9		火災発生時の関係諸機関の連携を示す図を読み取ることができる。	3・4年(4)イ	技	経年	84	4	6	5	84	0	0	0	
	(4)	10		火災に備えるための施設の位置や分布について、資料をもとに考え、説明することができる。	3・4年(4)ア	思	活用	68	0	0	0	0	27	68	6	
5	(1)	11		廃棄物の処理の仕方について資料を読み取ることができる。	3・4年(3)イ	技		83	83	5	4	7	0	0	1	
	(2)	12		廃棄物を資源として活用する取り組みについて、資料を読み取って、考えることができる。	3・4年(3)イ	思	活用	50	6	50	25	17	1	0	1	
	(3)	13		飲料水の使用量と人口の移り変わりに関する資料を読み取ることができる。	3・4年(3)ア	技		61	4	61	18	16	0	0	1	
	(4)	14		節水に関する取り組みについて考えることができる。	3・4年(3)イ	思		79	4	4	12	79	0	0	1	
6	(1)	15		47都道府県の名称と位置を理解している。	3・4年(6)ア	知	経年	85	2	3	85	9	0	0	0	
	(2)	16		等高線についての理解をもとに、地形の様子を読み取ることができる。	3・4年(6)イ	技	経年	73	16	73	3	6	0	0	1	
	(3)	17		岩手県の工業の様子を、地形や人口と関連付けて考え、説明することができる。	3・4年(6)イ	思	経年活用	57	0	0	0	0	34	57	9	
7	(1)	①	18		日本海の位置を理解している。	5年(1)ア	知		59	0	0	0	0	36	59	5
	(1)	②	19		日本の領土の広がりを理解している。	5年(1)ア	知		53	10	10	53	23	2	0	1
	(2)	①	20		日本の国土の地形を理解している。	5年(1)イ	知		64	18	7	7	64	2	0	2
	(2)	②	21		国土の気候の概要についての理解をもとに、気温と降水量のグラフを読み取ることができる。	5年(1)イ	技	経年	48	22	14	48	13	0	0	3
8	(1)		22		日本の主な食料生産物の分布を理解している。	5年(2)イ	知		72	72	9	7	7	2	0	2
	(2)		23		稲作に従事する人々が、生産の効率を高めるための工夫や努力をしていることについて、資料をもとに考え、説明することができる。	5年(2)ウ	思	経年活用	38	0	0	0	0	53	38	8
	(3)		24		稲作に従事する人々が、地形や気候などの自然環境を生かし、食料生産をしていることについて、資料をもとに考えることができる。	5年(2)ウ	思	活用	64	6	64	14	12	0	0	2
	(4)		25		これからの食料生産の課題について考えることができる。	5年(2)ア	思	活用	73	4	7	13	73	0	0	2
全体正答率								71								

※整数値で表示のため、合計が100にならない場合があります。

2 指導のポイント

(1) 「凡例」等をもとに、資料を丁寧に読み取らせたり、発問や資料の提示を工夫したりしましょう。

ア 問題例とその概要【6】(3)・通番号 17】(経年比較・活用問題)

〔問題文〕
 たくまさんは、岩手県の製造品出荷額について調べました。次の資料ア～ウを読み取って、製造品出荷額が高い地域はどのようなところか、「土地」「人口」という言葉を使って書きましょう。
 (社会的な思考・判断・表現)

資料ア 岩手県の製造品出荷額の様子

資料イ 岩手県の土地の様子

資料ウ 岩手県の人口の様子

《正答例》 土地が低くて、人口の多いところ。

《解答状況》 【正答率】 57% 無解答率：9%

《誤答分析》

誤答例として多く見られたのは、資料イのみから分かること、資料ウのみから分かることというように、個々の資料から分かることのみを記述しているものや、資料アで読み取ったことを、資料イ・ウと関連付けて(重ね合わせて)読み取れていないものがありました。

イ 指導上の留意点

複数資料を関連付けて考える力を身に付けさせるために、まずは、一つ一つの資料を正しく読み取る技能を育てることが大切です。この技能の習得には、資料の表題、単位、目盛り、変化などを丁寧に読み取る活動(算数科との関連)や、土地の高低を視覚的にとらえるために、立体地図や地理院地図(電子国土Web)等の活用も有効です。視覚的にとらえやすいように、ICTや透明シートを活用し、3つの資料を重ねて提示する等の工夫をしましょう。また、ICT等を使って拡大した資料で読み取ったことを全体で伝え合ったり、検討したりする活動を大切にしましょう。その際、「～と～を重ねると、どのようなことがわかりますか。」「3つの資料をまとめるとどのようなことが言えますか。」などと複数資料を関連付けて考えさせる発問を投げかけるとともに、考えを書かせる活動も重要です。

このような学習活動や手立てを大切に、複数資料を関連付けて読み取ったり、そこから分かったことを説明したりする力を育みましょう。【展開例1参照】

(2) 地図帳や地球儀を積極的に使用し、体験的に理解を深めていきましょう。

ア 問題例とその概要【7】(1)②・通番号 19】

〔問題文〕
 地図中のイ、ウの島名の組み合わせとして正しいものを、次の1～4から1つ選び、その番号を書きましょう。
 1 イー択捉島 ウー沖の鳥島
 2 イー択捉島 ウー南鳥島
 3 イー与那国島 ウー沖ノ鳥島
 4 イー与那国島 ウー南鳥島
 (社会的事象についての知識・理解)

《解答状況》

選択肢 1 : 10% 選択肢 2 : 10% 選択肢 3 : 53%【正答】 選択肢 4 : 23% 無解答率：1%

《誤答分析》

日本の領土の広がりについての問題でしたが、誤答として多かったのは、日本の南の端を南鳥島と誤って解答した選択肢でした。このことから、日本領土の大まかな範囲や東西南北の端の島の名称について、繰り返し触れる機会が少ないことが原因と考えられます。

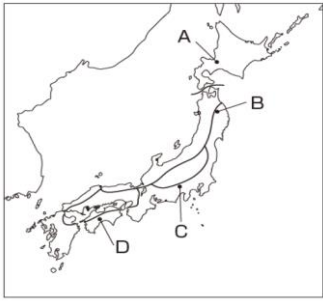
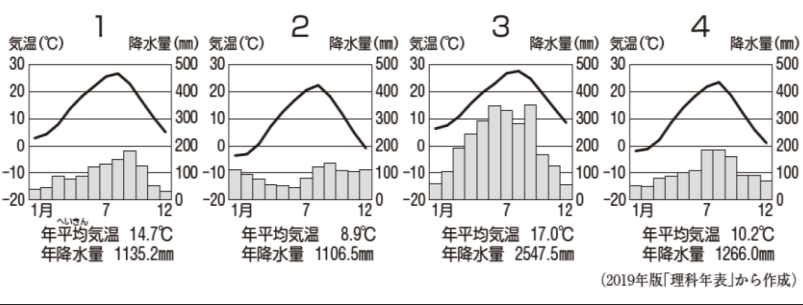
イ 指導上の留意点

新学習指導要領では、3学年から地図帳を使用します。地球儀とあわせ、凡例をもとに使い方を学んだり、授業の中で積極的に使用したりすることを大切にしましょう。日本の領土に関わる学習では、距離や地名等を暗記させるような活動ではなく、近隣諸国と我が国との位置関係を、個々やグループ、学級全体で地図帳や地球儀を使いながら、体験的な活動を通して追究する場面に大切にしましょう。

(3) 資料の見方や読み取り方を意図的・計画的に指導しましょう。

ア 問題例とその概要【7】(2)②・通番号 21】(経年比較問題)

〔問題文〕 次の1～4のグラフは、地図中のA～Dのいずれかの地点の気温と降水量を表しています。
Dの地点のグラフを1つ選び、その番号を書きましょう。(観察・資料活用の技能)

(2019年版「理科年表」から作成)

《解答状況》 選択肢1:22% 選択肢2:14% 選択肢3: 48%【正答】 選択肢4:13% 無解答率: 3%
《誤答分析》

誤答として、正解である選択肢3と年間の気温の変化がほとんど同じである選択肢1を選んだ児童が多く見られました。その他は、ほぼ同数でした。誤答を選択した児童は、各地域の気温や降水量の特色を十分に理解していないことが考えられます。

イ 指導上の留意点

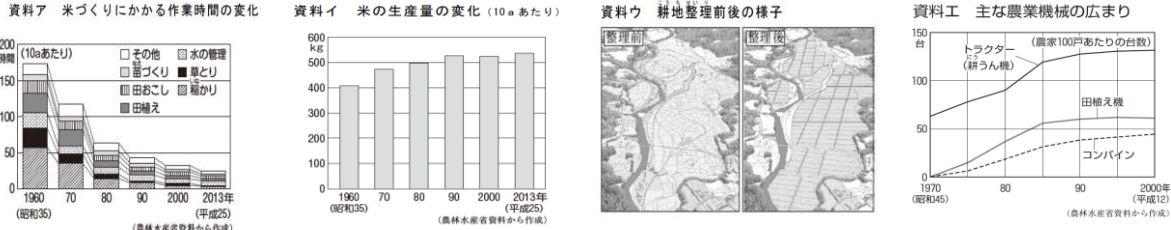
国土の気候の概要については、国土の北と南、太平洋側と日本海側では気候が異なることなどを、教科書、地図帳等を活用して調べ、白地図にまとめるなどの作業的な学習を通して、異なる理由を追求する指導場面が重要です。その際には、それぞれの地域の気候の特色を、日本の気候の違いが分かる地図と各地域の雨温図とを関連させて理解できるようにすることも大切です。

資料の特徴に合わせて必要な情報を読み取る技能を、意図的・計画的に指導していきましょう。

(4) 学習問題の解決に向けて、児童が考える視点を持ちながら学習を進めていくことを大切にしましょう。

ア 問題例とその概要【8】(2)・通番号 23】(活用問題)

〔問題文〕 しずかさんの班では、米づくりについて、資料ア～エをもとに話し合いをしています。あとの会話文中の□にあてはまる内容を書きましょう。(社会的な思考・判断・表現)



しずか「資料アを見ると、米づくりにかかる作業時間が減っているね。」
こうた「でも、資料イでは、10aあたりの米の生産量は増えているよ。」
ゆかり「どうして米づくりにかかる作業時間は減っているのに、10aあたりの米の生産量は増えたのかな。」
しずか「資料ウや資料エを見ると、□ことがわかるよ。」
ゆかり「それで米づくりがしやすくなって、米の生産量が増えたんだね。」
こうた「農家の人たちは、いろいろな工夫をして米づくりをしているんだね。」

《正答例》 耕地整理や機械化が進んだ
《解答状況》 【正答率】 38% 無解答率: 8%
《誤答分析》

誤答例としては、「耕地整理が進んだ」、「機械化が進んだ」のどちらかのみを解答している児童が多く見られました。また、無解答児童も多く見られました。「どうすれば米をたくさん収穫できるのか(大量収穫)」、「どうすれば米を効率よく収穫できるのか(効率化)」などの考える視点がないままに、視点がないことが原因であると考えられます。

イ 指導上の留意点

「昔より時間をかけずに多くの米を収穫できるようになったのは、なぜか」といった学習問題について、「どうすれば米をたくさん収穫できるのか」、「どうすれば米を効率よく収穫できるのか」などといった視点をもたせて追究活動に取り組みさせましょう。教科書にある南魚沼市の「地形」と「土地利用」の関係や、耕地整理を進めた「背景」に着目するような発問を行うなど、「なぜ」、「どのように」、「どうすれば」等の問いを大切に学習を進めましょう。また、根拠を持って説明する場面(グループ・全体)を設定したり、考えたことを自分の力で文章にまとめる活動を取り入れたりしましょう。【展開例2参照】

指導展開例 1

【課題が見られる問題① 6(3)・通し番号 17】 小学校社会 <平均正答率 57% 無解答率 9%>

小学校4年生 単元名:県の地図を広げて

◎本時のねらい

岩手県の工業の様子を、土地や交通、人口と関連付けて考えることができるようにする。

思考を促す発問例

これは「県内の工業のさかんな地域」の写真です。どんな様子ですか。

「岩手県の製造品出荷額の様子」の地図からどんなことが分かりますか。

岩手県の工業生産についてまとめた地図と、これまで作った地図とを比べて、どのようなことが言えますか。

岩手県の工業生産は、①の土地の視点から見て、どんな特ちょうがありますか。

岩手県の工業生産は、②の交通や③の人口と、どんな関係がありそうですか。

学習活動

1 「県内の工業のさかんな地域の写真」と「岩手県の製造品出荷額の様子(地図)」を見て、学習問題を設定する。「岩手県の工業のさかんな地域は、どのようなところなのだろう。」

2 工業生産が盛んな地域は、どのようなところか予想する。視点… ①土地の様子 ②交通の様子 ③人口の様子

3 学習問題を追究する。
(1)出荷額によって、白地図の市町村に着色する。
(2)主な工業製品の産地を調べ、白地図に言葉や記号を書き入れ、岩手県の工業生産地図を作成する。
(3)作成した地図について、視点①②③に沿って、これまで作成した地図(地形図、交通・人口地図、農・林・水産地図)と比較して考え、話し合う。

4 本時の学習を振り返る。(期待する児童の記述例)
岩手県の工業の盛んな地域は、土地が低くて、人口の多い所だということがわかりました。
工場がたくさんあって、働くところがあるから人が集まってくるのかなと思いました。

児童生徒の反応等

広い土地に建物がたくさんあります。

県の南のほうに、工業生産額が多い市や町が多いです。

工業のさかんな地域は、これまで学習した、①土地や②交通、③人口とも関係があると思います。

工業の地図と土地の地図を重ねてみると、北上盆地などの土地の低い所が工業がさかんな地域だと言えます。広い土地が必要だからだと思います。

北上盆地には道路や鉄道も多く、人口も集中していました。作ったものを運ぶのに便利だし、働く人が多くいるから、工業がさかんだと思います。

指導展開例 2

【課題が見られる問題② 8(2)・通し番号 23】 小学校社会 <平均正答率 38% 無解答率 8%>

小学校5年生 単元名:米づくりのさかんな地域

◎本時のねらい

米づくりの工夫を、土地の利用や機械化と関連付けて考えることができるようにする。

思考を促す発問例

2つのグラフを比べ、不思議に思ったことはありますか。

資料ウを見て、耕地整理の前と後では、どのような違いが見られますか。

水田の面積を広くしたり、水田の形を整えたりすることが、なぜ時間をかけずに多くの米を生産できることにつながるのですか。

学習活動

1 資料ア「米づくりにかかる作業時間の変化」と資料イ「米の生産量の変化」のグラフを見て、学習問題を設定する。「なぜ、時間をかけずに多くの米を生産できるようになったのだろう。」

2 時間をかけずに多くの米を生産できるようになった理由(農家の工夫)を予想する。
工夫の視点
①多く生産するため ②効率よく生産するため 等に分類する

3 学習問題を追究する。
(1)視点①②について、教科書や資料集で調べる。
(2)視点①②に沿って、分かったことを出し合う。
(3)資料ウ「耕地整理前後の様子」と資料エ「主な農業機械の広まり」の資料をもとに、工夫の意味について話し合う。

4 本日の学習を振り返る。(期待する児童の記述例)
水田の形を広く整える耕地整理を行ったことで、農業機械を取り入れやすくなり、短時間で多くの作業を行うことができるようになったことがわかりました。
私たちの食べる食料が、様々な工夫が行われて、より多く、より効率よく生産されていて、貴重だと感じました。

児童の反応等

作業時間は減っているのに、米の生産量は増えています。

何か工夫をしているのではないかな。

・一つ一つの水田の面積が広がっています。
・色々な形だったのが、水田の形が整えられました。

・資料エから、耕地整理を行うことで、農業機械が取り入れられてきたことがわかります。

・トラクターやコンバインなどの大型の機械が水田に入って作業しやすくなり、短時間でより多くの作業を行うことができるようになったからです。